



ハイゼックス炊飯による炊き出し体験



真剣に心肺蘇生法の実習に取り組む参加者

備えあれば憂いなし

大震災を考える「防災のつどい」

1月16日、町公民館講堂で赤十字防災ボランティア「ましき」による平成22年度「防災のつどい」が開催されました。このつどいは、16年前に起こったあの阪神・淡路大震災を忘れてはならない。大震災について考え、知識と技術を習得し、予期せぬことが起こる災害に備え、防災意識の高揚を図ろうと毎年行われています。

参加者は、まず屋外で非常食の炊き出しを体験し、AEDの取り扱いや人工呼吸などの心肺蘇生法、三角巾による包帯法などの救命救急法の実習を受け、日本赤十字社の国際災害救援活動のビデオを観賞しました。昼食は、最初に体験したハイゼックス米と豚汁を試食。冬将軍の訪れた非常に寒い日でしたが、参加者は温かい食事に体の中から温もっているようでした。

楽しかったお団子作り

辻団地集会所で「いきなり団子」作り

辻団地集会所で12月4日、辻団地北子ども会と木山校区シルバーヘルパー（西坂ヨシコ代表）、担当民生委員が、「いきなり団子」作りで交流を行いました。これは、お菓子作りをとおして地域の人たちとの交流を図ろうと、同子ども会の呼びかけで開かれたものです。

子どもたちは、シルバーヘルパーの皆さんからあんこやサツマイモの詰め方など、細かく手ほどきを受け、1個ずついねいに皮に包んでいきました。また団子が蒸しあがると、早速試食。約30人の参加者は、アツアツの団子をほおばり「おいしい～」と顔をほころばせていました。



手ほどきを受けながら団子を包む子どもたち



祭りに華を添えた県警音楽隊の皆さん

収穫祭に県警音楽隊も参加

津森小で「つもりっ子祭り」開催

11月28日、津森小学校（澤田久夫校長）で「つもりっ子祭り」が約250人の参加者を集めてにぎやかに開催されました。この祭りは、子どもたちが作ったお米や野菜などの収穫を、地域ぐるみで喜び合おうと開かれたものです。

午前中、子どもたちのステージ発表で始まり、お昼には、収穫したお米や学校農園でとれた野菜を漬け込んだたくあんや梅干などで楽しくおにぎりパーティー。バザーなども行われました。

午後は、熊本県警音楽隊の皆さんが祭りを訪れ、「ディズニーメドレー」や「チキチキバンバン」などを演奏。保育園児やお年寄りも一緒に、軽快な音楽を楽しみました。